

第3回 淡路市自分ごと化会議 会議概要

【本日の対話のテーマ】

これまでの2回の会議や提案書（案）の内容を基に、最終的な提案書の内容について議論した。

【参加者から出された主な意見】

1. 市の夏祭りについて：開催場所と目的の再定義

- 収益化とコストへの懸念：

観光収益化を目指す場合、トイレなどのインフラ整備に多額のコストがかかるのではないかという懸念や、収益が見込めないのであれば、思い切ってやめるといった判断も必要ではないかとの意見が出された。

- 開催場所の変更案（津名地区）

渋滞対策や市民のアクセスを考慮し、現在の開催場所ではなく、津名地区（市役所や商業施設など）で開催の提案があった。津名地区であれば一定の駐車場が確保でき、島内各所からのアクセスも良く、市民も参加しやすいとの声が挙がった。

- 市民ファーストと分散開催

観光客のためではなく、市民が浴衣を着て歩いて行けるような祭りを望む声があり、各地域での小規模な分散開催（200発以内の花火等）の提案も出された。

- 組合せモデル（第3の案）

「盛大な花火も見たい」かつ「地域でも楽しみたい」という両方のニーズを満たすため、津名地区で市と地域の合同花火（大規模）を行い、他の4地区でも小規模な花火を行うという「組合せモデル」が提案された。

- 最終的な提案方針：

一つの案に絞るのではなく、「1か所開催」「分散開催」「組合せモデル」の3つの選択肢をすべて提案書に併記し、可能性を広げて行政に提案することで合意した。

2. 地域のお祭りについて：担い手確保と情報発信

- 楽しさの共有

担い手不足対策として、単に市から補助金を出して存続させたり、人を集めのではなく、祭りの「楽しさ」や「ワクワク感」を伝えて参加者を増やすことが大事である。

- **情報発信の工夫**

地域外の人にも祭りの存在や歴史的背景を知つてもらうため、「お祭りカレンダー」の作成や、共通フォーマットのポスター活用などのアイデアが出された。

- **外部人材の活用と区別**

地域の祭りにおいても、神事とイベントは分けて考えるべきという指摘や、地域内だけで担い手が不足する場合は外部からの参加希望者を受け入れるマッチングのような仕組みが必要との意見が出された。

- **組織の限界と再編**

町内会の維持が限界にきている地域も多く、祭りの受け皿としても課題があり、行政主導での組織統廃合や運営の標準化支援が必要ではないかとの意見が出された。

【コーディネーターによるまとめ】

- 今回の会議は、来年度の予算や方針決定に間に合わせるため、非常にスピーディーかつ集中的に行われたものであり、淡路市としても新しい挑戦であった。
- 議論を通じて、「祭りは楽しくなければならない」という点が参加者全員の共通認識として確認できた。
- 最終的にどの案が採用されるかに関わらず、このプロセスに関わった当事者として、市が決定した方針を「応援団」として支えてほしいと呼びかけ、会議を締めくくった。